



1 地区の概況

- ◆地区の北は厚木街道に、南は泉区に接し、東側を和泉川が流れ、水と緑に囲まれた風光明媚な短冊型の地域。宮沢1丁目～4丁目全域及び二ツ橋町と南瀬谷1・2丁目の一部を含めた、11の自治会。
- ◆一戸建ての住宅が多く、持ち家率も高い。また、区平均と比べて居住年数20年以上の方の割合が高い。
- ◆人口は9,519人。15歳以下の人口は区の平均より多く1,448人(15.2%)、65歳以上の高齢者は区の平均より高く、2,496人(26.2%)を占めて、要援護者は476人(5%)(平成27年4月現在)

2 第1期・第2期で取り組んだ主な活動や事業

①災害対策

災害対策の充実化に取り組んだ。また、AED(自動体外式除細動器)を宮上会館と睦ひばり会館の2か所の自治会館に設置した。

②地域で健康づくり

町ぐるみ健康づくり教室をはじめとした、口腔ケアや介護予防等のシニア健康づくりを、またニュースポーツ・カローリングを実施し、高齢者と小学生による異世代交流ができた。

③地域サロンの開催

現在6つのサロンが月に1回開催。お茶飲みだけでなく、歌声喫茶のようなサロン「歌声ラウンジ宮沢」も誕生した。サロンの会場に地域の単位自治会館や高齢者施設を活用するなど独自の工夫を取り入れ、相互交流も盛んになった。

④見守り体制づくり

一人暮らし高齢者・障害者等を対象にした防災グッズ「安心くん」の配布、「緊急通報装置」の設置事業の実施のほか「ひまわり給食会」や、また配食部会も継続的に行われ、ボランティアの方々による安否確認が行われている。

3 第3期計画に向けての課題

- ◆ガリバーマップによる町の見直しを、二ツ橋地域ケアプラザをはじめ地域の様々な年代別の方々の協力により、憩いの場所や危険な場所のチェックを行った。今後の町づくりに生かして暮らしやすい町づくりが求められている。
- ◆見守り体制を今後さらに充実させるには、担い手の確保が重要。そのためにも「顔の見える関係づくりから～防災事業」を、これからの地域の助け合い、支え合いの気風へと広げていくための方法として、推進していくことが望まれる。
- ◆計画の推進について、定期的なふり返りが必要。

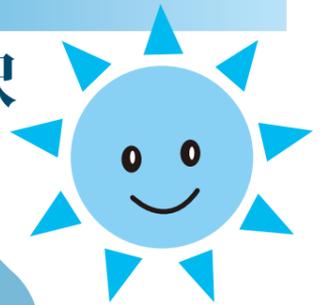


4 推進母体

宮沢地域福祉保健計画運営委員会
宮沢連合自治会、宮沢地区社会福祉協議会及び宮沢地区民生委員児童委員協議会

5 第3期計画

目標：**水と緑のまちづくり宮沢**



1. 災害対策

- ◆障害者や要援護者等を含めた防災訓練の充実
- ◆顔の見える関係づくりから始める地域の見守り
- ◆防災資機材の整備
- ◆各町内会毎に初期消火訓練や救急救命訓練等の実施

2. 地域での健康づくり

- ◆健康長寿をめざし、認知症予防、介護予防等の講演を含めた健康づくり教室の充実
- ◆元気な高齢者を増やすための口腔ケアや、軽度なスポーツ普及に努め、異世代交流の推進

3. 地域活動と見守り体制の充実

- ◆顔の見える関係づくりの推進とシニアクラブの育成・充実
- ◆担い手の確保と近所同士が見守り合いや支え合いの風土づくり(見守りの充実)
- ◆中高生のボランティアの活用と人材育成
- ◆地域サロン活動の充実に向けた支援(現在開設中のサロンの充実及び全町内会館での開催に向けた検討)
- ◆ひまわり給食会及び配食サービスの充実(継続的な安否確認)
- ◆障害者や要援護者等が地域活動に参加できる仕組みづくりの推進

4. 誰にもやさしいまちづくり

- ◆誰にもわかりやすい公園の通称名の共有とイベントを通し、宮沢の自然・資源を慈しむ
- ◆誰にも暮らしやすいあんしん安全なまちづくり
- ◆空き家の状況の把握と活用の検討
- ◆買いもの難民が生じないようにNPO法人等と協力して施策の検討

5. 活動拠点の確保

- ◆プール公園の管理棟や公共用地の活用等により、町内会館等の設置をめざす
- ◆宮沢保育園の改修に合わせて地域に開放できるホール等の併設施設をめざす

